



おとがわ



ふお～ゆ～

校長室だより

第 173 号

R6.9.13

文責 中西 勉



一人一人の成長を目指して

昨日、特別支援教育指導員の杉山彩先生（連尺小）をお招きし、3つの学級が研究授業に臨みました。6組は生活単元学習「お米のみりよく大はっけん!」、7組は生活単元学習「ようこそ セブンピザへ」、4年2組は社会科「自然さい害からくらしを守る」の授業を行いました。どの学級も、担任が子供たち一人一人の力を伸ばそうと、個への願いをかけて指導を進めていたのが印象に残りました。

私は職員に、「授業とは、個を伸ばす教師の営みである」という話をしています。指導者は、学級全体の平均点を上げることよりも、子供たち一人一人が「昨日の自分より今日の自分の方が成長できた」という実感を持てるようにすることを最も重視して授業を進めることが大切です。本校では、これからも子供たち一人一人の成長を目指して、日々の教育を進めてまいります。



▲6組



▲7組



▲4年2組



最年少と最年長 ～パリパラリンピックでの快挙～

8日に閉幕したパリパラリンピックで、金メダルの最年少記録と最年長記録が話題になりました。

車椅子テニスシングルの小田凱人選手は、18歳で金メダルを獲得し、史上最年少記録を達成しました。世界ランク1位の相手との決勝戦は、先にマッチポイントを握られながらも、鋼の精神力で自分を鼓舞し、大逆転を果たしました。試合後のインタビューでは、「俺はこのために生まれてきた！この金メダルを獲るために生まれてきました」と語り、この金メダルにかける思いの強さと、自分は金メダルを取るに値する十分な努力を重ねてきたという自信が伝わってきました。また、自転車競技・女子個人ロードレース決勝では、杉浦佳子選手が2大会連続金メダルの快挙を達成し、53歳で自身の持つ金メダル日本人最年長記録を更新しました。杉浦選手は、東京大会の後、「最年少記録は二度と作れないけど、最年長記録はまた作れる」と語っていましたが、見事にそれを果たしました。しかし、その実現に向けては、想像を絶する努力があったことを忘れてはなりません。この二人からは、目標に向かって努力を重ねることの尊さを学びたいと思います。



▲小田凱人選手（左）と杉浦佳子選手（NHKより）